

会 議 録

会 議 名 称	平成 28 年度 第 2 回加古川市スポーツ推進審議会
開 催 日 時	平成 28 年 9 月 15 日（木）午後 4 時 00 分から午後 5 時 30 分まで
開 催 場 所	鹿児島川 201・202 会議室
出 席 者	< 委員 > 高見会長、小林委員、戎木委員、松野委員、後藤委員、 難波委員、小寺委員、古林委員 < 市 > 田渕教育長、日浦部長、谷池次長、野村課長、田中課長、 宮武副課長、小口係長、村上主事、飯塚書記
会 議 次 第	開 会 1 委嘱状交付 2 教育長あいさつ 3 委員紹介 4 会長選出 5 会長あいさつ及び副会長指名 6 審議事項 （１）加古川市スポーツ推進審議会の役割・経過について ・加古川市スポーツ振興基本計画について ・加古川市のスポーツ振興の現状について ・加古川市スポーツ振興基本計画後期アクションプランについて （２）加古川市スポーツ振興に関する市民調査事業の進捗状況について （３）その他 7 その他 今後の加古川市スポーツ推進審議会のスケジュールについて 閉 会

審議内容（発言者、発言内容、審議経過等）	
開 会	
1 委嘱状交付	委嘱状交付
2 教育長あいさつ	教育長あいさつ
3 委員紹介	委員紹介

4 会長選出	会長選出 ＜委員より高見委員の推薦あり＞ 高見委員 会長へ選出
5 会長あいさつ 及び 副会長指名	高見会長あいさつ及び副会長指名 ＜高見会長あいさつ＞ ＜高見会長より副会長として後藤委員を指名＞ ＜後藤副会長あいさつ＞
6 審議事項 (事務局)	(1) 加古川市スポーツ推進審議会の役割・経過について ＜事務局説明＞
(会 長)	社会教育・スポーツ振興課とウェルネス推進課の関係性はどうか。
(事務局)	主に、社会教育・スポーツ振興課はスポーツ団体の所管やイベントの開催等ソフト面を、ウェルネス推進課がハード面を担当している。ただし、ソフト面でも、加古川ツーデーマーチや加古川マラソンといった大規模イベントについては、ウェルネス推進課が所管している。現在、社会教育・スポーツ振興課とウェルネス推進課とが連携しながら、スポーツ施策を推進している。
(会 長)	加古川市はウェルネス都市宣言をしている。ヘルスツーリズム等の健康をテーマにした人を呼び込む新たな計画はあるか。
(事務局)	本市には、漕艇センターという近隣市町にはない、独自の施設がある。そこでレガッタ大会の開催や、先ほど説明があった加古川ツーデーマーチと加古川マラソンの開催等市の特性を活かし、人を呼び込むことを考えている。
(委 員)	資料5のスポーツ団体紹介の中に老人クラブ連合会が記載されていない。老人クラブ連合会はどのような立場か。
(事務局)	老人クラブ連合会は、市内の高齢者を統括している団体であると認識している。生涯スポーツを推進していくうえで、各世代にあった施策を実行する必要があり、高齢者を統括している老人クラブ連合会の代表者に審議

	会委員としてご意見をいただきたいと考えている。
(会 長)	老人クラブ連合会とスポーツ推進委員会とのつながりはどうか。
(委 員)	加古川市スポーツ推進委員会は、市健康課や公民館の高齢者大学からの依頼により、高齢者の皆様にスポーツ等の指導を行っているが、老人クラブ連合会からの依頼は現在のところはない。 後期アクションプランの進捗状況では、高齢者に対する運動・スポーツ活動の支援に老人クラブ活動といきいき百歳体操があり、それぞれ担当が高齢者・地域福祉課と健康課となっている。今後、高齢者・地域福祉課とも協力をしていきたい。 また、最近、ご当地体操が各地で流行しており、その中でもいきいき百歳体操は全国的に有名な体操である。加古川市では、いきいき百歳体操は健康課が普及しているが、スポーツ推進委員会は体操の内容を知らないため、皆で共通して行える体操として、今後、取り入れたいと考えている。
(事務局)	庁内の連携についてご意見があったが、今年度、新規事業として、庁内関係 8 課が情報を共有することを目的に、ウェルネスプラン 運動・身体活動ワーキングチームを発足している。
(委 員)	ウェルネスプラン 運動・身体活動ワーキングチームについて詳しく知りたい。
(事務局)	健康課が健康増進計画の策定にあたり、関係課を集めて庁内の連携を取りながら施策を推進していく目的で、ワーキングチームが発足している。 平成 28 年度は、運動・身体活動に特化した取り組みを検討することを目的としており、資料として配付しているウォーキング手帳を作成した。
(事務局)	(2) 加古川市スポーツ振興に関する市民調査事業の進捗状況について ＜事務局説明＞
(委 員)	調査はどのような年齢層に行っているか。
(事務局)	20 歳以上に調査を行っている。資料の値は速報値であるため、全体の値のみ記載しているが、次回の審議会には年代別に値を記載できる。

	今回の調査で週 1 回以上運動・スポーツを行う市民の割合は 47.0%であったが、参考に、国の週 1 回以上運動・スポーツを行う国民の割合は昨年のデータで 40.4%、県は平成 25 年度のデータとなるが 47.2%であった。 その他の項目については、前回の中間評価時から値が低くなっているため、大きな課題として次期計画では、重点的な取り組みとして検討しなければいけないと考えている。
(副会長)	平成 19 年度の調査と平成 28 年度の調査で、スポーツの定義を変更していないか。
(事務局)	運動・スポーツの種目はクライミング等のニュースポーツをいくつか追加している。
(副会長)	家の近所で実施するウォーキング等も追加していないか。
(事務局)	ウォーキングについては、平成 19 年度調査時も項目にあった。
(副会長)	競技場やスタジアムでスポーツを観戦する市民の割合については、地元チームの試合開催状況及びチームの成績によって影響がでる。
(事務局)	今回の調査は、テレビ観戦は対象となっておらず、会場に出向いてスポーツを観戦した割合となっているため、値がマイナスとなっていることが考えられる。
(副会長)	テレビでスポーツ観戦しても、スポーツを観戦したと回答する人は少ないと思われる。
(事務局)	市ではウェルネス推進課がプロのバレーボールやバスケットボールの大会を開催しているが、来場者は 20 歳未満の市民が多いように感じる。このようなことから、成人のスポーツ観戦率が低下しているのではないかとと思われる。
(副会長)	Vプレミアリーグのバレーボール大会にしても、大会を誘致した当初は観客が大勢いたが、最近は減少してきているように感じる。
(委 員)	中学校部活動では、学校で大会を開催することがあり、観戦に大勢の方が来られている。

(会 長)	今調査は、プロスポーツを想定して作成したが、本来は小学校や中学校で開催されている大会の観戦についても入れないといけないと思う。競技場・スタジアムといった質問であるため、限定されてしまっていることが考えられる。
(会 長)	調査結果全体をみると、現在は、ランニングやウォーキング等、個人志向になっているのかもしれない。個人的にスポーツを楽しんでおられることは良いことであるが、例えば NPO 法人加古川総合スポーツクラブに加入いただけるように検討することも必要である。
(会 長)	調査は地域別に集計できるか。
(事務局)	地域別に集計できる。
(委 員)	スポーツ・ボランティア活動を行う市民の割合について、加古川マラソンや加古川ツーデーマーチでボランティアとして協力いただいている方が大勢おられるが、現在は、市内のスポーツ 3 団体の会員がボランティアとして協力している状況であり、一般市民のボランティアスタッフの募集等は少ないように思う。 加古川市が開催されているイベントと比較すると、7.4%という数値は、低いのではないか。
(事務局)	ツーデーマーチでは、団体ボランティアと個人ボランティアを募集しているが、スポーツ・ボランティア活動を行う市民の割合の目標を 20%と設定している中で結果が 7.4%のため、非常に少ない。
(委 員)	募集があればボランティアをするという方も大勢おられるので、個人でボランティアに参加しやすくなると、今以上にスポーツに興味をもってもらえたり、連携がとれたりするのではないかと思う。
(会 長)	加古川市にボランティアバンクはあるか。
(事務局)	市のボランティアバンクはない。
(副会長)	ボランティアをしている方の年齢層の集計は可能か。
(事務局)	可能である。

(委 員)	この数値は、公表されるか。
(事務局)	ホームページで公表する。
(委 員)	私は現在、剣道連盟に所属している。ボランティアに関して、保護者が剣道連盟の役員として運営を行うことも、どちらかというボランティアではないかと思う。ボランティアというと、イベントの協力スタッフというイメージがあるが、スポーツ団体や教室の運営やスポーツの指導を行うことについても、ボランティアと言えるのではないか。
(副会長)	P T Aも同じことが言える。動員をされているから、ご本人はボランティアと思っていないのではないかと。能動的に参加していれば、ボランティアであると実感するのではないかと。
(事務局)	加古川ツーデーマーチや加古川マラソン大会等に組織として関わっている方についても、動員をされているため、ご本人はボランティアといった意識がないのかもしれない。今後、質問の内容を「ささえる」といった内容にすることも検討したい。
7 その他 (事務局)	今後の加古川市スポーツ推進審議会のスケジュールについて ＜事務局説明＞
(委 員)	週1回以上運動・スポーツを行う市民の割合を50%にする目標について、ベースであるスポーツをする人を増やすためには、スポーツは「できる」や「楽しい」と感じてもらえるようにしなければならないと思う。ランニングは、現在「みる」スポーツから「する」スポーツに変化してきており、60歳になってからランニングを始められ、フルマラソンを完走される方も大勢おられる。 また、ベースであるスポーツをする人を増やすためには、情報発信の強化が必要である。私自身、加古川市で百歳体操を実施していることを、本日、初めて知った。加古川市では、日中にトレーニングジムに行くと、とてもにぎわっており、県内外の他市町と比較しても、スポーツが盛んに行われていると感じる。
閉 会	